

# 宮城いきいき便り

いきいきSUNクラブ、宮城いきいき学園の活動を  
紹介するページです

## 得た知識を地域で発揮

宮城いきいき学園・3月に卒業式

### ◆仙南校 宇野洋さん(68)



―学園での一番の思い出は？

学園に入ってから学年委員会に所属したが、最初に顔合わせをして2年間みんなで楽しく学園生活を送れるよう、委員会メンバーと懇親会を企画し、実行したこと。懇親会をきっかけに、ほとんど顔の知らない同期生の皆さんといろいろな会話をし、

一体感ができた。

文化祭も思い出深い。1年生の時は震災の影響で文化祭の準備開始が遅れてしまったが、練習日にはみんなが集まって出し物の練習を重ね、本番では満足いくできばえとなった。

自分たちの意見がいろいろある中で、一つのものをつくり上げていくという一体感を養った。その後、さまざまな行事を企画し開催したが、参加率も80%とよく、楽しい学園生活だった。

なかった。今では同期生全員が友達だ。友達ができたことで、学園生活の意義はあったと実感する。学園には本当に感謝している。

自ら考え、自ら行動することも学園生活で学んだ。自分は65歳で定年退職したが、退職後は積極的に地区に顔を出すようにしている。学園には退職から1年間のブランクの後に入った。学園そのものは知らなかったが、先輩に勧められて入学した。ほかの人にも勧めたいと思っている。

―学園で学んだ内容で、

### 卒業後に生かしたいことは？

ボランティアなどの地域貢献をするにしたい。健康でなければ駄目。まずは健康が維持できるようにしたい。そしてボランティア活動を通じて、地域の皆さんに貢献していきたい。

ご多分に漏れず、自分は会社人間として突っ走ってきた。今まで地域や家庭を顧みなかったおわびと思っている。学園では、企画から実行までのプロセスを経験させていただいた。会社とは違った人間関係も必要と痛切に感じている。このことは今後の活動に生きてくる。と思っています。

文化祭を大成功に終え、笑顔で記念写真に収まる仙南校の2年生



同期入学した40人のうち、卒業できるのは36人。2人の方が在学中にお亡くなりになり、2人の方が中退された。

卒業後は36人の方と同期会として、趣味に、ボラン

ていて、このことは今後の活動に生きてくる。と思っています。



### ◆登米・栗原校 高橋正勝さん(69)

―学園での一番の思い出は？

2年間の学園生活の中で、修学旅行が一番印象に残っている。震災の年、学園が6月から再開できるかどうか分からない時に、仲間と修学旅行の計画作りを始めた。同じ学園生同士でも顔も名前も知らなかったが、修学旅行を通じ、お互いにか

り合えると思っていた。修学旅行で山形に行き、宴会では皆さんが想像以上の出し物を披露し、盛り上がった。バスの中でも楽しく過ごした。旅先では震災で被災した人のために、みんなで作ろうということになった。酒田のつるしびなを作り、秋の文化祭でそれを展示した。修学旅行後は学園生からの要望が出た。花見や旅行などを楽しんだ。

卒業後は「絆10期」という名で活動している。こうと考えている。学園に入ってから知らない人と出会い、2年間で楽



ねんりんピック宮城・仙台大会の卓球会場でボランティアとして活動した登米・栗原校の2年生

しく仲間づくりができたのが自分の宝。これからも仲間と楽しくやっていけたらいい。学園には感謝したい。震災で学園はもう駄目かと思つたこともあつたが、登校日を心待ちにしていた。今後は小さなことでも、自分から進んでやっつけていきたい。いろいろな面で関わりたいと思つている。同期生の横のつながりだけでなく、同窓生との縦のつながりができるものからボランティア活動をしていきたい。自分で楽しみなからやらないと長続きしない。そのためには自分の生活をエンジョイできればと思う。